

令和 4 年度仙台市図書館運営方針・事業計画

1 運営方針

「仙台市図書館振興計画 2022」に基づき、学校・家庭・地域と連携した子ども読書活動の推進、図書館を利用しにくい方々へのアウトリーチ型の事業の充実を図る。感染症のまん延など不測の事態への対応や、障害のある方への読書支援など、多様なニーズに対応するため、従来の紙を媒体とする図書の充実と併せ、オンラインサービスを推進し、来館型・非来館型それぞれの長所を適切に取り入れた図書館サービスを提供する。

地域や市民の様々な課題解決を支援しながら、本を通して心を支え、市民一人ひとりの生涯にわたる主体的学びに役立ち、共に成長を続ける図書館を目指す。

2 めざす図書館像と実現に向けた 4 つの方向性

めざす図書館像「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」

方向性 1 地域の創造性を継承・発展させるとともに、市民の課題解決や探求的活動を支援する地域・市民に役立つ図書館をめざします。

方向性 2 子どもの年齢や障害の有無に応じた図書館サービスを行う、0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館をめざします。

方向性 3 誰もが使いやすく、どこに住んでいても情報が身近に届く、市民一人ひとりに利用しやすい図書館をめざします。

方向性 4 図書館資源の適正配分と適切な評価を踏まえた経営を行う、自らの変革を進める図書館をめざします。

3 令和 4 年度の重点

(1) 地域の関係機関や施設との連携の強化 **方向性 1**

SDGs の 17 のゴールを意識した事業を実施し、地域のニーズに合わせた資料の充実を図る。また、レファレンスサービスの周知・広報を図るとともに、地域の関係機関や施設と連携した事業を推進する。

(2) 赤ちゃんと絵本のふれあい事業の展開 **方向性 2**

赤ちゃんと保護者が絵本を通じて触れ合い、コミュニケーションを図ることで、家庭での読書活動をより充実したものにつなげるとともに、子育ての居場所となる事業を展開する。

(3) 誰もが利用しやすい図書館サービスの推進 **方向性 3**

電子書籍のコンテンツの拡充を図るとともに、図書館を利用しにくい方々へのアウトリーチ型事業を研究する。また、読書バリアフリー法を踏まえ、誰もが使いやすい図書館サービスの取り組みを進める。

(4) 若林図書館指定管理者の公募 **方向性 4**

若林図書館について、令和 5 年度からの第 3 期の指定管理者の公募を行う。

4 事業計画

【方向性 1】 地域や市民に役立つ図書館となるために

| | 施策項目 | 令和 4 年度の主な取組内容 |
|---|-----------------------------|---|
| 1 | 生涯学習を支援する基盤施設としての図書館サービスの充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる世代の学びを支える資料の収集・提供 ・イベントの実施等、資料と人、人と人が交流できる場の形成 ・各種ブックリストの提供 ・動画配信や各種イベントのオンライン開催の研究 ・市外からの転入者へ図書館利用案内の配布 |
| 2 | 課題解決に取り組む市民の学びのサポート | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する展示やイベントの開催【重点】 ・窓口でのレファレンスサービスや、事例集・ホームページによるレファレンス情報の提供 ・オンラインデータベースを活用した調べ方講座の開催 ・行政サービス向上に資するブックリストの提供 |
| 3 | 地域の歴史や魅力の継承・発信し、未来の地域づくりに貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ・「震災文庫」や郷土資料の継続的収集と活用促進 ・地域の専門機関と連携したイベントの開催【重点】 ・郷土資料や地域の特性を踏まえた電子図書館の運営【重点】 |
| 4 | 多様な機関との連携による「学都仙台」の活力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民が利用できる大学図書館の紹介 ・蔵書を持つ専門施設の情報収集と案内 ・大学図書館や専門施設との連携 ・メディアテーク等社会教育施設と連携した事業の実施 |

【方向性 2】 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館となるために

| | 施策項目 | 令和 4 年度の主な取組内容 |
|---|--------------------------------|---|
| 1 | 乳幼児から読書に親しみ、豊かな感性を育む機会の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん絵本のふれあい事業の実施【重点】 ・児童書コーナーの資料の充実 ・おはなし会等の本に親しむイベントの開催 ・妊娠期の親を対象としたイベントの開催 |
| 2 | 障害のある子どものニーズに応じたサービスの提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校等への貸出資料の充実 ・マルチメディアデイジーなどのバリアフリー資料の貸出 ・手話付おはなし会の開催 ・アウトリーチ型事業の研究 |
| 3 | ヤングアダルト世代の読書活動・学習活動の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・ツイッター等のSNSを活用したプッシュ型広報の継続 ・図書館サポーター等中高生が参加する取り組みの継続 ・いじめや命をテーマにした資料に関するリストの活用 ・YA向けコーナーの資料の充実と魅力的な展示 ・電子図書館におけるYA図書の紹介 |
| 4 | 学校との連携を推進し、子どもの読書環境・学習環境の向上を支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校でのブックトーク実施の継続 ・貸出用パッケージの見直し等学校貸出サービスの拡充 ・オンラインを活用した連携事業の研究や学校訪問による情報交換等 |

| | | |
|---|------------------------------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・小中高校1年生向け利用案内や読書通帳等の積極的配布による図書館利用の促進 |
| 5 | 家庭・地域等と連携し、子どもの創造性を育む読書活動を支える環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア向け講座・交流会の実施や活動の場の提供 ・児童館や子育て支援施設等との連携事業の実施 ・「家読（うちどく）」の魅力伝える事業の推進 ・体験型事業を通じた子どもの居場所づくり |

【方向性3】市民一人ひとりに利用しやすい図書館となるために

| | 施策項目 | 令和4年度の主な取組内容 |
|---|-------------------------------|---|
| 1 | どこに住んでいても図書館サービスが利用できる環境の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・サービススポットの利用促進 ・電子図書館サービスの充実【重点】 ・図書館サービス窓口のあり方の検討 ・移動図書館車のさらなる有効活用方法の検討 |
| 2 | あらゆる人に使いやすい図書館サービスの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会に即した資料や障害者向け資料の充実 ・手話通訳付講座の開催等、障害のある方も参加しやすいイベントの開催 ・英語による基本的な窓口対応のための取り組み ・障害者福祉機関等との連携構築 |
| 3 | ICT環境の進展など社会環境の変化を踏まえたサービスの提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館サービスの充実【重点】（再掲） ・SNS等による情報提供の強化 ・和書資料の電子化と古典籍総合データベース連携 |

【方向性4】自らの変革を進める図書館となるために

| | 施策項目 | 令和4年度の主な取組内容 |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 仙台市民の財産として資料の計画的収集・保存と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズの変化に対応した資料の収集 ・郷土資料や地域の特性を踏まえた電子図書館の運営【重点】（再掲） |
| 2 | めざす図書館像を市民と共有して図書館づくりを推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・ツイッター等のSNSを活用したタイムリーな広報 ・ホームページ等を活用した積極的広報 ・ボランティア等市民参加の促進 |
| 3 | 図書館資源の適正配分・管理と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・若林図書館の指定管理者の公募【重点】 ・指定管理者制度の活用に関する検証・検討 ・市民図書館の中央館としてのあり方検討 ・不測の事態に対応した図書館サービスの研究・適切な運営 |
| 4 | 図書館サービスの評価・分析を活かした図書館経営 | <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標による評価方法の検討 ・アンケート・意見箱等、利用者ニーズに基づく運営やサービスの改善 |
| 5 | 図書館職員の資質と専門性の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の専門知識や接遇等の研修による職員のスキルアップ ・OJTの実施や研修内容の共有化 |